

中 コミュニティ・スクールだより

釧路市立共栄中学校 コミュニティ・スクールだより 第4号
平成28年11月11日(金) コミュニティ・スクール事務局

平成28年度 釧路市立共栄中学校コミュニティ・スクール 第4回推進委員会

今回は10月29日の共栄中学校土曜活動にコミュニティ・スクール推進委員さんも参加してもらい、その後、第4回推進会議を開催しました。土曜活動は、授業参観と地域合同防災訓練・消防署による防災教室が行われました。今回初めて町内会の地域住民に参加してもらい、大津波避難施設の本校に入って3階まで上っていただきました。来校していただいた地域の方の中には、「初めて共栄中学校に入った」という方もいました。今回声をかけたのは、中学校に隣接している6町内会なので距離的にも学校に近い地域住民の方でしたが、今まで中学校に入る機会がなく、「学校と地域の方との関わりが薄かった」ことが分かりました。



推進会議では土曜活動の反省と来年度からのコミュニティ・スクールの組織体制について話し合われました。土曜活動の反省は特に地域合同防災訓練について話し合われました。

○今回は学校近くの町内会の方が参加したり、避難食をPTAの保護者が作ってくれたりと多くの保護者・地域住民が参加してくれたことが良かった。



○避難食の試食は、作ることも食べることも初めて体験できたが、実際の被災時を考えると一度体験した人は自主的に行動できるようになると思う。

○自然災害はいつ起こるか分からない。そのため、常に忘れないように継続した取組が必要である。など来年以降の取組に参考となる様々な意見が出されました。

「地域合同防災訓練」・「防災教室」が開催されました

地域合同防災訓練は、共栄中学校と地域とのつながりを「深める」ことを第一に開催されました。そのつながりを深めるきっかけとして考えたのは、地域も学校もこれから考えていかなければならない『防災』でした。今回は最初ということもあり、大津波避難施設である本校を「知ってもらう」こと、「触れてみる」ことを目的として行いました。内容としては、現在本校に備蓄されている備蓄品の展示と避難食の試食を行いました。備蓄品は、段ボール



ベットとアルミブランケットを教育委員会から借りて、実際にブランケットを体に巻いたり、ベットに横たわり、その強度や寝心地など床との違いを比べてみました。たかが「段ボール」と考えていましたが、大人が横たわってもつぶれる様子もみせないベットに思わず「すごい」の声が出ていました。特にみんなびっくりしていたのが、避難食「アルファ米」の試食でした。作った保護者の方も作り方は簡単で、実際に食べてみても美味しいと評判でした。アルファ米はお湯でも水で



も作れるようですが、今回は美味しく食べられるようにお湯で作ってみました。しかし、反省では実際の被災時を考えるとお湯を沸かすことができないかもしれない。そのことを考えると冷たくても水で作る経験も必要ではないか。との意見も出されました。消防署員の方からは地震や津波の発生原理や津波の怖さなどをDVDの映像も見ながら分かりやすく説明してもらいました。講話の中で繰り返しお話しされていたのは、被災時にはまず「逃げること」・「自分の命は自分で守る」ことが大事であり、中学生のみんなは小さな子どもやお年寄りを助けて欲しいと訴えられました。参加者それぞれが自分事として考える機会となりました。



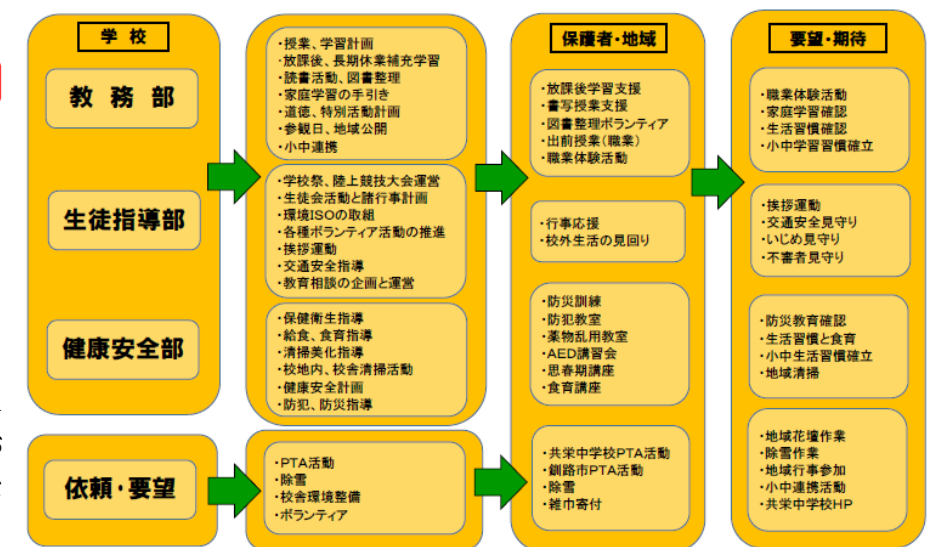
平成29年度 共栄中学校コミュニティ・スクール組織体制について

来年度のコミュニティ・スクール指定に向けて、実際にコミュニティ・スクールを推進していく組織体制について検討しています。学校と保護者、学校と地域、保護者と地域の三者が協力体制を組み校区内の子ども達のより良い成長を臨むためには、誰が、どの場面で、どのような取り組みを行うことが良いのか、また、誰がそれらを集約して連携を図っていけば良いのか。今現在の学校の取組状況から大きく変更することなく、進められることが良いだろう。ということで、現在の取組状況から考えてみました。

現在の学校推進体制



現在の学校での取組状況



今現在は、学校とPTAが主な活動主体となっており、これから、地域とのつながりや学校を支援するボランティアや関係諸団体の方を増やしていく方法、連携する体制を整えていかなければならないことが意見として出されました。